

経済産業研究所における研究成果の取扱いについて(原山委員より)

1. セミナー等情報発信のツール

コンフェランス(HP上で、配付資料の他、ブロードバンドで講演の様子を閲覧可能): 所長と研究委員が問題意識を共有し、問題提起をするにあたって機が熟してきたと判断したときに半日から2日程度で有識者等を招いたコンファレンスを企画。ロジスティックの面で、コンフェランスチームの強力なサポートがあり、企画担当の研究員は中身の企画に集中することができる。

(最近の主な実績)

- ・ Asian Economic Integration - Current Status and Future Prospects -
- ・ 京都議定書とその実施 -合理的政策選択としての地球環境対策をめざして-
- ・ 「産学連携の制度設計：大学改革へのインパクト」 他

BBL セミナー(HP上で一部配付資料、セミナーの概要、今後の予定を閲覧可能): 米ワシントンのシンクタンクで日夜繰り広げられているような政策論争の場を日本にも移植し、policy market を作りたいという思いで企画しているブレインストーミングセッション。国内外の識者を招き、様々な政策について、政策実務者、アカデミア、ジャーナリスト、外交官らとのディスカッションを実施。会場スペースの制約もあり、現状では非公開。

(最近の主な実績)

- ・ Marcus Noland (Senior Fellow, Institute for International Economics)
"Korea: Challenge and Opportunity for Japan"
- ・ 中林美恵子(経済産業研究所研究員)
「米国予算編成プロセスの紹介 ---最近のトレンドを含めて---
- ・ スピーカー：井深丹(タマティーエルオー代表取締役社長)
- モデレータ：原山優子(経済産業研究所ファカルティフェロー/東北大教授)
「産学官連携とTLOの役割」 他

政策セミナー：実際に政策を企画立案・実施している政策実務者と研究所フェローとの間の議論、研鑽の場として、原則として隔週月曜日12時から午後1時半まで開催。政策担当者より、それぞれの分野における最近の動向や制度設計上の課題、問題点などについて紹介いただき、そのうえで、参加者の間で忌憚のない意見交換を行う新たな試み。会場スペースの制約もあり、原則として非公開だが、参加希望の場合は政策セミナー担当まで連絡。

(最近の主な実績)

- ・ 経済産業省経済産業政策課 三又裕生
「中小企業金融リスクマネジメントについて」
- ・ 経済産業省産業技術環境局大学連携推進課長 堅尾和夫
「産学連携に関する最近の動向と課題」
- ・ 経済産業省国際経済課企画官 住田孝之
「国際経済政策を巡る現状と課題」 他

リサーチセミナー (HP 上で一部資料を閲覧可能): 主として研究所フェロー
および外部の研究者間の交流、研鑽の場として、毎週木曜日午前 10 時から
12 時まで開催。発表内容は原則として発表者の専門分野の研究とし、参加
者間で忌憚のない意見交換を行うアカデミックなセミナー。会場スペースの
制約もあり、原則として非公開。

(最近の主な実績)

- ・ 小林慶一郎 (経済産業研究所フェロー)
「Forbearance Impedes Confidence Recovery」
- ・ 菅谷明子 (経済産業研究所フェロー)
「IT 戦略に欠けている視点? 循環型の情報社会を支えるメディアリテラシ
ーとは」
- ・ 深尾京司 (経済産業研究所ファカルティフェロー)
「Foreign Direct Investment in Japan: Empirical Analysis Based on
Establishment and Enterprise Census」(伊藤恵子氏と共著) 他

コラム (HP 上でやり取りを閲覧可能): 週 1 件のペースで、その時々ホット
トイッシューに対して担当研究員が Web 上に投稿。それに対して研究員等
がコメント等の反応を記載。

(最近の主な実績)

- ・ WTO シンポジウム報告 ~ WTO を取り巻く変化- 途上国と NGO ~
経済産業研究所 研究員 相樂 希美
- ・ 無線インターネットに「鎖国」する日本
経済産業研究所 上席研究員 池田 信夫
- ・ 1 兆円規模の研究開発投資減税を !
経済産業研究所 研究員 玉田 俊平太 他

2. 研究成果の発表形態（すべて研究員の責任において情報を公開）

ディスカッションペーパー（HP 上に summary と全文(PDF)が公開）: 公表する際、上記のリサーチセミナーでパスすることが条件（インフォーマルなルール）

（平成 13 年度以降：計 20 編）

- ・自動車税制を活用した地球温暖化防止政策の評価
金本良嗣 ファカルティフェロー（共著 藤原徹・蓮池勝人）
- ・日本のバイオ・テクノロジー分野の研究開発の現状と 3 つの課題
中村吉明 研究員（共著小田切宏之）
- ・IPv6 は必要か
池田信夫 上席研究員（共著 山田肇）
- ・コモンズとしての電波デジタル無線技術と電波政策
池田信夫 上席研究員
- ・三井三池炭鉱閉山後の炭鉱離職者の再就職状況に見る労働者の転職可能性
児玉俊洋 上席研究員
- ・日本の対外直接投資と空洞化
深尾京司 ファカルティフェロー（共著 袁堂軍）
- ・自動車産業の生産性：『工業統計調査』個票データによる実証分析
深尾京司 ファカルティフェロー（共著 伊藤恵子）
- ・インターネットによる情報通信産業の垂直非統合
池田信夫 上席研究員
- ・A Note on a Mechanical Source of Business Cycles
Keiichiro Kobayashi
- ・Japan's Debt Trap and the Complexity Externality
Keiichiro Kobayashi and Masaru Inaba
- ・Why Does the Problem Persist? "Rational Rigidity" and the Plight of Japanese Banks
Kiyohiko G. Nishimura and Yuko Kawamoto
- ・The Spectrum as Commons (Revised)
IKEDA Nobuo
- ・Incentives and Option Value in the Silicon-Valley Tournament Game (Revised)
Masahiko Aoki and Hirokazu Takizawa
- ・Development of Longitudinal Micro-Datasets and Policy Analysis for Japanese Industrial Sectors
Kazuyuki Motohashi

- Use of plant level micro-data for SME innovation policy evaluation in Japan
Kazuyuki Motohashi
- Careers and incentives of Japanese "fast-track" bureaucrats: A career-path dependent model perspective
Kotaro Tsuru
- Bank relationships and firm performance: Evidence from selected Japanese firms in the electrical machinery industry
Kotaro Tsuru
- Road Transport and Environmental Policies in Japan
Yoshitsugu Kanemoto, Katsuhito Hasuie, and Toru Fujiwara
- Foreign Direct Investment in Japan: Empirical Analysis Based on Establishment and Enterprise Census
Kyoji Fukao(Fellow) and Keiko Ito Hitotsubashi University
- JAPANESE TECHNOLOGY POLICY: HISTORY AND A NEW PERSPECTIVE
Harayama Yuko (Fellow)

経済政策レビュー（東洋経済新報社より刊行）：研究員が自分の研究分野においてある程度成果が出てきたところで、企画書を提出。単独、クラスターの同僚とのジョイント、コンフェランスのまとめ等と形式は様々。

（平成 13 年度以降：計 5 編）

- ブロードバンド時代の制度設計
池田信夫・林 紘一郎編著
- モジュール化 新しい産業アーキテクチャの本質
青木昌彦・安藤晴彦編著
- 医療改革 痛みを感じない制度設計を
川淵孝一著
- 日中関係の転機 東アジア経済統合への挑戦（経済政策レビュー第 2 号）
宗像直子編著
- バランスシート再建の経済学（経済政策レビュー第 1 号）
深尾光洋・寺澤達也（上席客員研究員）・小林慶一郎（研究員）著

経済政策分析シリーズ（実績なし）：設置されて 2 年目の区分。個々の研究者が磨き上げた研究成果の総括。

(参考)

経済産業研究所中期計画（概要）

研究所は、中長期的な経済システム改革の問題に関する調査・研究を行い、理論的・分析的フレームワークに基づいたインパクトある政策研究・提言活動を実現していく。

このためには、研究所が提供する研究成果・提言内容が、高い学術的水準を確保していること、プロジェクトのテーマ設定(アジェンダ・セッティング)が適切なものであり、中長期的な政策形成ニーズに十分合致したものであること、

これら研究成果・提言内容を普及するための方策が効果的に実施されることが、これら活動のパフォーマンスを向上させるための体制・仕組みが確保されていること、が必要不可欠であり、具体的には、以下に取組む。

高い学術的水準の研究成果の確保を図る：研究人材の観点から学術的水準の確保を実現する、研究所が公表する研究成果のクオリティ・コントロールを行う仕組みを確立

中長期的政策ニーズを見据えた適切な研究プロジェクトの設定を実現する：適切なプロジェクトの設定とその遂行を実現するためのポテンシャルを確保する、政策当局との補完性に留意し、自由闊達な活動と客観的な研究・提言内容を実現する、中長期的ニーズに沿った研究プロジェクトの柔軟な設定とそのための環境を確保

これら研究成果・提言内容を効果的に普及するための方策を講じる：インパクトのある充実した提言・普及活動を積極的に展開する、インパクトのある提言・普及活動を確保するためのメカニズムを確保

政策研究・提言活動のパフォーマンスを向上させるための新たな取組み：情報システムを活用したパフォーマンス向上に向けた新たな取組み、人的体制における新たな取組み

これら質的側面での充実の結果発出されるアウトプットに関する計画：質的な側面での実現、指標面でのアウトプットの実現